

# 顔表情に基づく年齢推定の心的処理過程：笑顔の誤信念に着目して

吉村，直人

<https://hdl.handle.net/2324/5068158>

---

出版情報：Kyushu University, 2022, 博士（心理学），課程博士  
バージョン：  
権利関係：

氏 名	吉村直人			
論 文 名	顔表情に基づく年齢推定の心的処理過程 —笑顔の誤信念に着目して—			
論文調査委員	主 査	九州大学	准教授	山田祐樹
	副 査	九州大学	教 授	橋彌和秀
	副 査	九州大学	講 師	山本健太郎
	副 査	九州大学	准教授	錢琨

## 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、笑顔が若々しいという一般的な考えが実は誤ったものであるという「笑顔の誤解」に着目し、その一般化可能性や生起機序を検討することで、我々の年齢推定の心的処理過程を明らかにしたものである。本研究では、最初に笑顔の誤解について日本とスウェーデンの二国間の参加者・顔刺激を用いて文化的影響について検討を行った。その結果、日本・スウェーデンの二国間で笑顔による年齢推定バイアスが観測され、この現象が文化的一貫性を持つ可能性を示唆した。またその生起機序について、様々な観点から実験的検討を行い、笑顔で生じる顔全体のシワを知覚的に処理することによって加齢的に推定させることで生起している可能性を示唆した。また、この加齢的判断は、笑顔の人数によって増加するが、100～500ms の間に判断され、推定対象が個人である方がより強く生起することが示唆された。そして、それらの結果を整理し、理論的考察を行った。理論的考察では、直接的な観察から笑顔を年齢推定する場合、シワなどの知覚的特徴が重み付けされることで笑顔が加齢的に推定されるが、回顧しながら笑顔の年齢推定を行う場合、顔の記憶表象の情報が想起できず、笑顔と若さの関連を他の手がかりとして評価に利用することで若く推定されるという顔表情の年齢推定処理モデルを提案した。

このように、本論文は笑顔と若さの誤った連合に対して直接的な追試を行うことで文化的一貫性を明らかにし、さらに一連の実験的検討によって笑顔がどのように評価され、年齢推定に影響するのかを検討することで、顔表情に対する年齢推定の心的処理過程を明らかにした重要な研究である。年齢推定の心的処理過程を解明することは、多くの場面で対象者の瞬間的かつ正確な年齢判断が必要とされる現代社会にとって非常に大きな意義があると言える。

よって、本論文は博士（心理学）の学位に値するものと認める。